地区別人権・同和教育懇談会開く

泉川校区の標記の会が７月３日（火）は岸の上、松木坂井、下泉の各自治会館と瀬戸会館で、４日（水）は西喜光地、外山、東田の各自治会館と泉川中学校を会場に実施された。

東田自治会館でもＰＴＡの役員さんや教職員が早くから準備にかかる。会が始まり『街かどから』というビデオを視聴するのだが、観る前の注意として担当者から「登場人物の言動を通して、私たちの身近な生活の中で偏見や差別意識がどのようなときに、どのような形で現れるのか見てほしい」と適切なアドバイス。とてもわかりやすく参考になった。

ビデオ視聴後、参加者は３班に分かれて車座に。

順次自己紹介のあと、ビデオを観ての感想や印象に残った場面、事柄を述べていく。「今の若い者は」「ハイツの住民は」と十把一絡げ（じっぱひとからげ）で見る風潮には辛い評価を、「何か力になりたい」「地域の人と関わりをもとう」とする人たちの言動には強く心を動かされる。堅苦しくなく、気さくに意見を述べ合う研修の場であった。

泉川まちづくり協議会からも報告

平成２４年度愛媛県人権教育協議会 新居浜支部総会開く

標記の会が、７月４日（水）、消防コミュニティ防災センターで開かれた。佐々木　龍支部長の開会あいさつのあと、前東田保育園園土岐恭子さんら１０人に人権教育功労者として感謝状が贈呈された。

次いで議事に入り、平成２３年度の事業報告及び決算報告・監査報告を承認し、平成２４年度事業計画について審議した。計画案によると、人権教育を学・社一体の施策で進め、「くらしに生きる人権教育」の実践に努める。そして、「差別の現実に学ぶ」を基本にして就学前、小・中学校、高等学校、社会教育、組織・企業、行政の７部会の活動をとおして具体的に人権啓発を推進することとし、了承された。

～第５９回四国地区人権教育研究大会～

標記の会が７月５日（木）・６日（金）の両日、高知県民文化ホールなどを会場に開かれた。

開会行事に続く全体会では、四人教事務局長代理の本田実さんが基調報告を行った。氏は『差別の現実から深く学ぶ』を深化発展させるため、「事実（現実）の背景を見つめる」「なかまづくりを進める」「エンパワメントを支援する」の３点を提言。そして、単なる「心がけ」でなく自己変革を伴う『生き方そのものを学ぶこと』なのだと訴えた。

午後からの第４分科会「人権確立をめざす地域の教育力」では、新居浜市の泉川まちづくり協議会の野本敏久さんが「人と人とがつながりあうコミュニティの再生を求めて」と題して報告した。泉川公民館を拠点に活動する『泉川まちづくり委員会』には「子ども支援」など７つの部会があり、そのうちの「生涯学習」部会が取り組んだ人権学習を報告した。

今回はハンセン病問題を取り上げ「無知、無関心が差別や偏見を生じさせていることが多い」と学んできた経緯が発表され、会場からも反応があり、さらに多くの議論につながった。

第２日は高知市の西山識字学級に通う３人から報告があり、差別からの解放へ向けて、それぞれのひたむきな姿勢、真剣さが参加者の胸を打つ学習の場となった。

8月11日(土) ― 人権のつどい日「社会的立場の自覚を促す教育について」講師　四国中央市立川之江南中学校　校長　宮内　則人さん

8月の主な行事予定

8月8･22日(水) ― 移動図書館

8月12日(日) から であい展を開催

皆さんのご来館をお待ちしています。

第5回 であい展

8月12日（日）～16日(木)　開催

9:00～17:00

瀬戸・寿夏まつり 16日（木）19:00～

8月公演

回転木馬おはなし会

8月23日予定

10:00～11:00

泉川小学校放課後児童クラブ

瀬戸会館だより
平成２４年8月号
新居浜市瀬戸会館
〒792－0821
新居浜市瀬戸町７-30
E-mail
seto@city.niihama.ehime.jp
℡０８９７
４１－５８５９
（FAX 兼用）

人権あらかると

破　戒

桜井哲夫

青森県北津軽郡鶴田町妙堂崎
長峰利造　大正十三年七月十日生まれ
父太兵衛　母はる
癩園への旅立の朝
顔を歪めて父は言った
たとえ口を裂かれるともこのことだけはけっして言うな
父の戒めを守って四十五年
俺は死んだ人のように口を開かなかった
だが六月二十五日ライを正しく理解する日が来るたびに思うのだ
俺が固く口を閉ざしていて誰に癩を正しく理解せよと言うのか
俺は戒めの口を開こう
俺は罪によって生まれたのでもなければ悪によって病人でいるのでもないのだから
父よあの朝あなたは許してくれと言った
そして今私はあなたに許して下さいと言う
すべての人に理解をもとめてあなたの戒めを破るのだから

桜井哲夫『桜井哲夫詩集』（土曜美術社出版）より
本名　長峰利造
13 歳でハンセン病を発症
17 歳で国立療養所栗生楽生園（群馬）に入園
29 歳で失明
＊作品は介護の人の代筆による

「人権のつどい日」にひろう

７月１１日（水）は、「探梅　～春、遠からじ」という教材を視聴したあと、人権啓発指導員伊藤學さんの司会で参加者が話し合った。

高齢化社会が叫ばれ、人が孤立することで問題が深刻化する今。地縁、血縁、社縁で結ばれていた過去に戻ることができないとすれば、「新たなつながり」がいるのではないか――という内容であった。「そういうのは役所とか、世話好きの人にまかせといたら」とよく耳にするが、せめて、困ったときには互いに「助けて」と言える関係がほしい、と。

ある人の言葉「他者の苦しみを見て見ぬふりをすることによって、自分の心をマヒさせている」「無関心は人の心の死である」の意味は重い。プライバシーとの微妙なバランスの上に成り立つものだけに、心して取り組みたい。

華やぐ会場　～詩吟のつどい～

駐車場に着いてドアを開けると、発声練習をする女性の声が聞こえてきた。いろいろな流派が集い今年で 35 回目を迎える新居浜吟遊連盟婦人部大会が、6 月 24 日（日）ここ文化センターで開かれた。

瀬戸会館では毎週木曜日の夜７時から約２時間、円卓のＢ室で張りのある声が次々と響く。この皆さん方は清鏡会という流派に所属しての活動だが、今回の婦人部大会では清鏡会が当番として会を運営する大役をこなすことになっているとか。大会の式次第で伊藤扇峰(洋子)さんが「開会宣言」を、伊藤花峰(トシ子)さんが「会長挨拶」をこなすほか、受付、会場案内、進行などの責任者を務め本当に忙しい。

プログラムの順番が来ると持ち場を離れて壇上に向かう。山台紅峰さんが白居易の、神野高峰さんが空海の作品を吟ずるなど、皆さんそれぞれが日頃の練習成果を問う姿は凛として、清々しい。朗々と流れる吟を紙上でお聞かせできないのが残念、である。

楽しい夕涼み会でした

夏休み初日の７月２１日（土）、瀬戸児童館では「ゆうすずみ会」が行われた。門を入ると右手にいくつかのテントのお店が並び、大勢のボランティアの皆さんが汗をふきふきせわしく動く。
新居浜南高校の生徒さんも笑顔で声をかけている。
飲み物食べ物がある中で、ダントツの人気はかき氷！だった。

陽が少し傾いて、ステージでは恒例の「ゆかたファッションショー」が始まった。次々と登場する児童はカメラの放列に向かって「ハイ、ポーズ！」。気がつけば、会場はたくさんの人で大盛況！用意した椅子は満席で、立ったままの人も相当数。

すっかり陽が落ちて、テントにぶら下がる赤い提灯がくっきり夜空に浮かぶ。親子づれの、あるいは爺ちゃん婆ちゃんも一緒に、楽しい語らいが続いていた。